

海外便り

エチオピア通信 (9)

中山 実

1. はじめに

エチオピアでは、既に9月12日に新年を迎えていますので、2004年の1月1日は、普段と変わらない1日でした。しかしながら、ヨーロッパ人等の外国人は、クリスマス休暇と新年休暇を組合わせた休暇を自国で過ごすようで、街中では、少しばかり外国人が少なかったような気がします。

また、エチオピアのクリスマスは、1月7日であるため、2003年12月25日のクリスマスは、気にしているエチオピア人もいれば、気にしていないエチオピア人もいました。ただ、近年では、西洋のクリスマスを意識するエチオピア人も増えてきたようで、一昨年(2002年)の12月25日に比べて少しばかりイルミネーションがメイン通りにありました。

2. OJT 訓練の進捗 (前編)

現在、センターの未舗装部分の舗装工事をOJT訓練として行っています。赴任してから、教科書の作成、材料試験室の整備等の技術移転を行ってきましたが、それらの総復習を兼ねて行う事にしました。また、私の技術移転目標が、「現場施工監督者の養成」となっているので、OJT訓練として実技だけを重視するのではなく、施工計画、機材の調達、コスト管理等の施工管理の技術移転も行いました。

ただ、エチオピアは日本と違い、職種と職種内容が、かなり細かく分かれているので、そもそも日本でいう現場施工監督者の養成は不可能でして、単に施工管理を技術移転すると言っても数多くのインストラクターを相手にしなければいけませんので、計画作成段階で想像以上に長引きました(写真-1、写真-2)。

施工計画・コスト管理計画の技術移転を行った時です。これまで、書いてきた事でもありますが、センターでは計画を作る事もなければ、守る事もそれほど大事な事と思われていません。加えて、施工計画等の作成は、コンサルタ

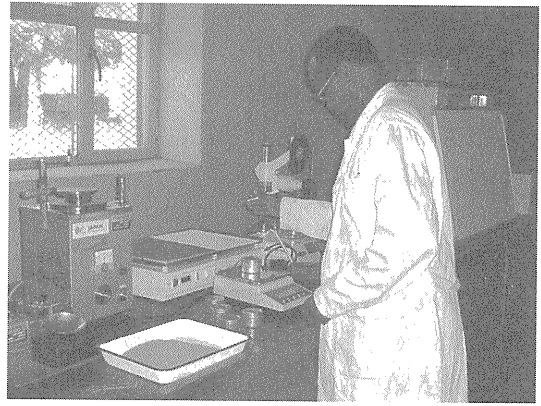


写真-1 材料試験実習

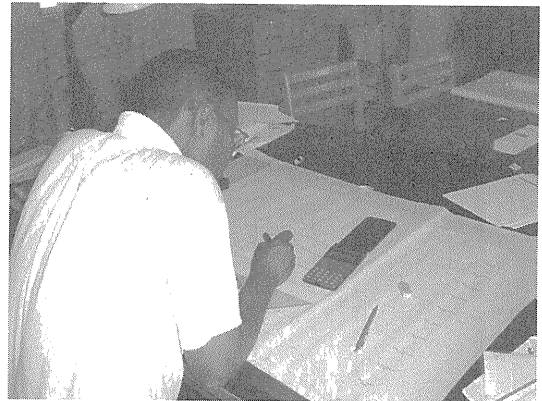


写真-2 製図実習

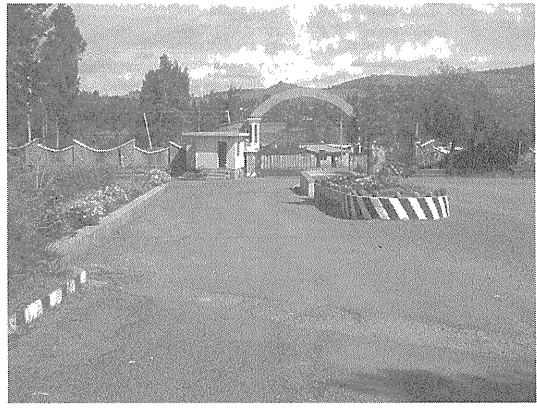
ント会社が行う仕事であって、作成のみだけでなく、計画内容等の確認作業も、違うコンサルタント会社によって行われるので、そもそもERA職員ではEngineerレベル^{*)}でなければ施工計画等に携わる事が出来ないのです。

私の技術移転相手は、Engineerレベルではないので、施工計画の作成は、線の引き方等のいちからの説明となりました。ましてや、コスト管理など出来ません。彼らの仕事は、燃料が無くなれば、仕事をストップするというものなので、計画を立てるという感覚はなく、何か問題が起きてから対策を考えるとと言うスタンスです。そのようなことなので、何とか理解しようと努力するインストラクターもいれば、そんな事は自分の仕事で無いと徹底的に拒否をするインストラクターもいました。さすがに、苦労しました(写真-3、写真-4)。何とか計画を立てたのですが、無理をして計画した事が守られるもので無い事は、どの世界に

*) Engineerレベルとは、エチオピアでは、大学卒業者を指します。技術専門学校以下の出身者は、Associate Engineer, Superintendent等と呼ばれ、職種、職種内容がかなり限定されます。ERA全体でも限られた数しかいませんが、本訓練センターでは、Engineerはセンター長と私のカウンターパートの2名のみです。ちなみに、ERAのEngineerが少ないために、私のカウンターパートはよく不在となります。そのため、今回の施工計画等の作成の技術移転は、Associate Engineerにより行われたため、より一層困難な状況を生み出しました。Engineerなら時間はかかりますが、比較的容易に技術移転を理解できます。



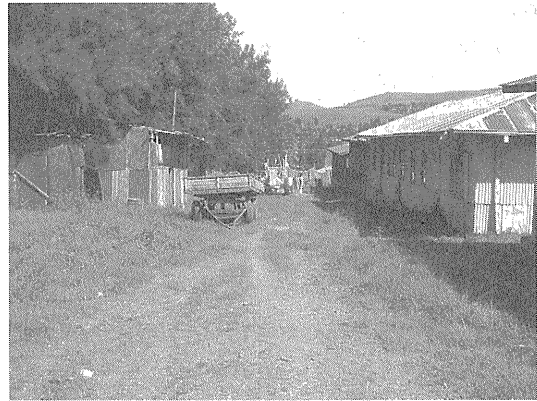
写真—3 測器実習



写真—5 コンパウンド施工前



写真—4 標識の準備



写真—6 仮設道路（建設前）

おいても常であると思います。当然の事ながら、すぐに実習段階で無理が生じてしまいました。やはり日本のように上手く行きませんでした。いろいろ問題はありますが、大きな問題は以下の2点です。

① OJT 実習で使用する建設機械は、運転操作部門が独自の訓練をしていない時にしか使用できないので、運転操作部門の訓練時期がずれるとなかなか使用できない。

② 作業員の確保がなかなか難しい。

運転操作部門は、独自の訓練カリキュラムを組んでいるので、OJT 訓練に参加する事はありません。そのため、私のセッションでの建設機械の使用可能期間において、かなりの制約がかかる事は、施工計画段階で想定はしていたのですが、それよりも大きなエチオピアの問題である「計画を守らない」というそもそもの事柄に予想以上に影響を受けてしまいました。それは、どの訓練コースも訓練開始日に、訓練生が集まらないという状況です。この問題は新訓練コース開講当初から発生していたのです。エチオピア国内の情報伝達網の脆弱と、それに付随する訓練生がセンターに辿り着くまでの交通機関に問題があるからです。即ち、いつ、訓練が始まるのか、終わるのか判らない状況が発生するので、なかなか建設機械を使用する事が出来ないので。使用時期を決めていても、訓練コースの終了が遅

れば、建設機械が使えないのですから、工事は自ずと止まります。

訓練生が集まらないのなら、集まるまで機械が使えるのではと思われる方もおられると思いますが、建設機械のインストラクターもギリギリの人数でやっていますので、インストラクターに突然、他の仕事が入れば、使用できないのです。エチオピアでは、モーターグレーダー、バックホウ等それぞれの建設機械専用の運転手が決められているからです。

同様に、作業員もギリギリの人数しかいないので、他の仕事が入ったり、休んだりすると、作業を行う人数が揃わないので工事に取り掛かれません。日本のように手早く何でもする習慣ではないので、少しばかりの期間が空いても、直ぐに取りかかる事が出来ない、といった所です。

そもそもの問題は計画を守らないと言う事に尽きると思います。プロジェクトとして技術移転もさる事ながら、計画を立てて、それを守る事を再三、要望していますが、なかなか意識が変化せず難しい問題です。なにせ遅れる事が、問題とされていないのですから…（写真—5、写真—6）。

次回は、OJT 訓練の進捗（後編）として建設機械を使用した実習の進捗をお知らせしますが、この誌面を借りて、1ヵ月で、かなりの進捗がみられる事を祈りたく思います。

—なかやま みのる JICA 派遣専門家、国土交通省近畿地方整備局—